



きすげ

12月号

府中市立浅间中学校
校長 山本 周一

☎ 042-360-0031 FAX 042-334-0945 www.fuchu11c.fuchu-tokyo.ed.jp/

【面接練習から見えてくること】

校長 山本 周一

3年生の面接練習を進めています。面接の基本的なことは、各学級で指導しており、知識はあるわけです。しかし実際に実行する時にはうまくいかないことも多くあります。

ところで面接ではどのようなところを見るのでしょうか。身だしなみやマナー立ち居振る舞いなど適切な行動ができるかということは誰もが配慮すればできることです。「見た目だけで判断するな」と思う人もいると思いますが、「見た目さえも整えることができない」人という見方もできます。最低限のことをきちんとできることが前提です。

面接官は、その人の本質を見たいと思っていますし、その生徒によりよい高校生活を送って欲しいという思いを持っています。従って面接官の思いや願いが質問に表れます。

例えば「何故この学校を希望したのですか」という質問は、目的を持って高校生活を送って欲しいというメッセージです。答えるときに学校案内に書いてある内容を述べることはよくあることですが、その言葉にも説得力がある場合と表面だけで答えているなど感じられる場合があります。説得力のある言葉は、多くの場合、説明会に参加したり、その学校の生徒から話を聞いたりする中で実感をとまって表現された場合のように感じられます。必ずしも表現は上手くなくても、自分の考えや気持ちを言葉にのせて面接官に届けることが大切です。



次に当たり前のことですが、質問に正対した答えをすることが大切です。どんな人でも面接は緊張します。緊張すると、自分が何を答えているか分からなくなってしまう場合があります。そのようなこともあって、質問に対しては、まず結論を簡潔に述べ、次に必要に応じて理由を述べるという順番を心がけるといいと思います。結論さえ伝わっていれば何を言いたいのかは理解してもらえます。もしも理由などについて十分に述べることができなかつたり、混乱してしまったりしたとしても大きな誤りにはなりません。

ところで、もしも答えに困ることがあった場合には、どうしたらよいでしょうか。最も避けなければならないことは、その場をとりつくろうために考えてもいないことを話すことです。これからのこと、将来のことについては、予定の中のことですから、戸惑う人は少なく「これから考えていきます」と伝えても堂々としていられると思います。しかしこれまでのことについては、自分の経験等に沿って答えるわけですから考えてもいないことを述べる場合などはそれが姿勢に表れます。私のかつての上司は仕事の仕方として「上手くやろうとするな、正しくやれ」「迷ったときは困難な方を選択しろ」と言っていました。面接においてもその場しのぎの答えをした場合や自信がない答えをした場合などは、目が泳いだり、斜め上の方向を見たりするなど正面を見ることを避けるような姿がよく見られます。ですから自信をもって答えられるためにも素直に自分の考えを述べましょう。



浅間作文発表会



12.11 生涯学習センター

昨年は、中止となってしまいましたが、今年は感染予防対策を講じて実施することができました。

特選作文に選ばれた人の中から、4名が発表会に参加して、舞台上で立派に作文を発表しました。

下に、今年の作文作品集から、小学校の時からこの作文に親しんできた浅間地区の子どもたちのこの作文に対する感想が上手にまとめられている作品がありましたので、掲載いたしました。浅間地区青少対の皆様、ありがとうございます。

「浅間作文」 第39回作文発表会作品集「浅間地区の子ら」より

3年5組 橋爪 美紀

私は、作文を書くことがあまり好きではない。書くことが思いつかないので、取りかかるまでにも時間がかかる。特に浅間作文はテーマが自由なので、なかなか書くことが決まらない。小学生のときから夏休みの宿題で一番取り組みたくないものだった。私としては、他の作文のように、テーマを決めてほしいと思う。一から考えるのは大変で、テーマがないと自分が何を書いているのかわからなくなってしまふからだ。ただ浅間作文を書いていくなかで、新しく身についた力がある。それは、小さなことにも目を向けるということだ。

浅間作文を書こうと思っても書くことが見つからないとき、夏休み中のことを書こうとなる。すると、夏休み中に経験したことや気になったことなど普段だったらそのまま流してしまうようなことを考えるきっかけになる。例えば、毎日気温が高くて大変なこととか、セミがうるさいとか、そういう本当に日常的で小さな出来事だ。このような日常的なことは、他の作文だとテーマがあるので書ける機会がない。しかし、テーマがない浅間作文では書くことができる。テーマがないほど広い視野で色々なことに目を向けられるので浅間作文の良いところだなと感じた。小さなことに目を向けるという力は身につけば、それが当たり前になるので苦になることもないし、自分の知識が増えたり、考えが広がって、勉強や日々の生活にも生きてくる。

また、浅間作文はテーマが自由な分、書くことを決めるのは大変だが、決まって書き出せば、好きなことを書けるので他の作文の時よりも楽しんで書くことができる。これも浅間作文の良いところだなと感じる。

作文を書くことがあまり好きではない私にとって、テーマがないほどつらいものはない。けれど、この浅間作文がなかったら身についたことがなかったかもしれない力が、小学生のときから書き続けたことで身についた。来年からは浅間作文を書くことはないけれど、この作文を通して身につけた力をこれからも大切にしていきたいと思う。

【12月の主な予定】

- 17日(金) 専門委員会・本部会
- 20日(月) 生徒会朝礼
創立40周年記念行事準備会 16:00~
- 22日(水) 給食終
- 23日(木) ③大掃除
- 24日(金) ③二学期終業式

【1月当初の主な予定】

- 6日(木) 3年生都立高校推薦受検者 出願指導 8:30~
- 11日(火) 3学期始業式
- 12日(水) 教職員研修会のため午前授業、給食始
- 14日(金) 授業改善推進拠点校研修会のため5時間授業
- 15日(土) 土曜授業日 午前中3時間授業



11.13 避難所運営夜間訓練



11.24 1年生 ふるさと学習「府中囃子」



12.13 「教師道場」研究授業
1年1組 社会